間違った愛国心を見破れ

「日本の人民の身魂が九分九厘まで悪になりているから、外国を日本の地にいたさねばならんから、日本の地に置かれんから、どんなことがあっても神はもう知らんぞよ」（まつりの巻一〇帖）

「綱切れたら沖の舟、神信じつつ、迷信に落ちてござるぞ。日本の国の御霊曇っていることひどいぞ」（黄金の巻二一帖）

日本の国を、神の分かる大和心の国にしようと思ったけれども、現状は、穢れ果てた我ばかり強い人間になり果ててしまった。この民族に使命を期待できないから、捨ててしまおう、というのである。西欧は我が強くても、神霊や良心的理性が発達しているゆえに、それなりにバランスがとれている。良心や神霊を失った大和心は、使い物にならないのだ。

日本に期待したからこそ、黒住、金光、天理、大本を与えてきたが、塩の味がしなくなった今では、あとは捨てるだけだと言う。

神が捨てれば「神も仏もこの世におらぬのざというところまで、とことん落ちていくぞ」となる。自然の力も構造も、人間は利用するだけで、変える力はない。一方的に自然に任せるほかな